

特定非営利活動法人

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース



クマガイソウ *Cypripedium japonicum*

も く じ

愛川敬武代表理事のご逝去を悼んで・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

活 動 レ ポ ー ト

総会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 2

調査員会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

第1回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 3

第2回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 4

第3回観察会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 5

——愛川敬武代表理事の逝去を悼む——

理事 高橋 重男

平成 22 年 2 月 19 日、川越市「やすらぎの里」に於いて愛川前代表理事の葬儀がしめやかに行われました。各界からの実に沢山の献花に囲まれた愛川さんの遺影は、かすかに微笑んで参列者を見下ろし、牧野事務局長の弔辞を聞いていました。牧野さんは弔辞の中で、生前の多岐に亘る愛川さんの活動や、教師としての意欲的な生き方を紹介していましたが、私達は改めてその偉大な人間性に触れることができました。

植物調査の方法論では私と意見の相違するところもありましたが、行政的手腕や会を運営する能力は高く評価しておりました。

旧版の埼玉県植物誌が実体と次第にかけ離れた昭和 50 年代、当時植物に関心の深い生物科の先生方と一緒に、外秩父の山々を歩いて予備調査を始めました。愛川さんが高校生物研究会の会長となられた時、総会で動議を提案して正式に改訂版の作成が決定されました。作成過程での愛川さんの采配振りは実に見事でした。年度毎に各地域を分担する調査員にノルマを示し、常に標本第一主義を貫いて裏付けのある植物誌を完成されました。愛川さんのこの業績は彼の名前とともに後世に残り、後の研究者に有効に利用されることと思います。

個人的になりますが、愛川さんと私との出会いは昭和 30 年の頃の「埼玉県高校理科研究会」の三峯山での現地研修会でした。これを契機に「埼玉県高校生物研究会」が発足し、熊高・川高交歓会などを通して親交が深まりました。最も印象的な出来事は、平成元年両神山での現地研修会の時でした。台風が通過した後だったので、バスが途中で引き返し、私達が両神山の山頂に達したのは翌日の 2 時頃でした。円形の方位指示盤の横に 2 人並んで寝転び、天空を眺めていると人工衛星が尾を引いて西から東へ飛んでいきました。暗闇での難行苦行でしたが、却って楽しい思い出となっています。

本会の規約により、私が代表理事の代行となりまして、愛川さんの後を引き継ぐことになりました。何としても力不足なので事務局の方々や会員の皆さんにご迷惑がかかると思いますが、精一杯やるしかありません。

愛川さんには私達の活動と会の発展を温かな目で見守っててください。ご冥福をお祈りいたします。

活 動 レ ポ ー ト

【総会】

日 時：平成 21 年 6 月 14 日（日） 10：30～12：00

場 所：川越市アトレ川越

参加人数：32 名（委任状 12 名）

NPO 法人埼玉県絶滅危惧植物種調査団平成 21 年度総会が、埼玉県みどり自然課野生生物担当藤沢主幹と芦川主任を来賓に開催されました。

当日は平成 20 年度の事業報告書、会計収支計算書、監査報告や平成 21 年度の事業計画書案、会計収支予算案が審議され承認されました。

総会に先立ち理事会が下記のように開催されました。

日 時：平成21年6月14日（日） 10:00～10:30

場 所：川越市アトレ川越

参加人数：10名（委任状0名）

21年度総会に提案予定の事業報告および事業計画案、収支決算および収支予算案、監査報告が承認されました。

【調査員会議】

日 時：平成21年6月
14日（日） 13:00～
15:30

場 所：川越市アトレ川越

参加人数：25名

平成21年度埼玉県レッド
データ植物編再改訂調査業務
受託に伴う作業分担および報
告について打ち合わせを行う。



調査報告についてのお願い

I 埼玉県レッドデータブック植物編再改定調査

1. 調査報告期間 21年4月より21年2月10日までとする

2. 掲載植物調査

ア 現地確認調査：担当 田中実

イ 標本調査：担当 矢島民夫・三上忠仁・岩田豊太郎

3. 植物群落調査：担当 須田大樹・島井誠司

4. 移入植物調査：担当 愛川敬武・太田泰弘

5. レッドリスト原案作成：担当 運営委員会

II 指定希少野生植物種選定調査（植物）

1. 調査報告期間 21年4月より21年1月15日までとする

2. 調査対象種の説明

3. 現地調査記録の報告

【第1回 野外観察会】

日 時：平成21年6月18日（木） 10:00～15:00

場 所：寄居町円良田湖周辺

参加人数：14名（指導者：高橋重男理事）

天 気：小雨

活動内容： 円良田湖は昭和30年に完成した灌漑用のダムであるが、奈良時代には朝廷に献上する馬の牧場であったし、更に古い約50万年前の洪積世の頃は、荒川の本流が

波久礼の山稜を超えて流入していたという。湖の東端の掘り割りに見られる、ローム層の下にある玉砂利の層が証拠だといわれている。

私達は五百羅漢で有名な少林寺の境内を散策しながら、いろいろな最盛期のアジサイの花を観賞し、トンボ公園を経て円良田湖岸へ出た。路傍にはイヌムギ、ネズミムギ、カモガ



ヤ、オニウシノケグサなどの外来植物の侵入が目立ち、林床にはベニシダ、イタチシダ、トラノオシダ、ヘビノネゴザなどのシダ植物が見られる。

円良田湖の左岸の夏緑樹林は、コナラ、エゴノキ、クリ、ヤマザクラなどの高木が優占種で林床はヤマツツジ、オトコヨウゾメ、ガマズミ、ヒサカキ、アズマネザサなどにシュンラン、ヤブラン、ヒカゲスゲ、ヤブスゲ、ヒメカンスゲなどの草本が疎に混ざっている。

やがて作家三島由紀夫の別荘下へ出た。彼の生前には馬で散歩する姿を見た人もいた。円良田湖から出て荒川に注ぐ川を逆川（サカサガワ）という。旧秩父街道がこの川に架かる橋を西行の戻り橋といい、私達はその謂われを読んで解散した。（高橋）

【第2回 野外観察会】

日時：平成21年10月14日（水）

場所：寄居町鉢形城跡から赤浜地区（昌国寺）へ

参加者：21名（指導者：高橋重男・矢島民夫理事）

天気：晴れ

活動内容：秋の開放講座は寄居町の市街地の対岸、鉢形城跡から始まった。ここは埼玉県立林業試験場があったので、セコイア、ラクウンショウ、リギタマツ、マロニエなどの外国種を含め、国内各地から集めた680種の樹木が植栽されている。一段高いところの本曲輪は、クヌギとコナラの林となり奥に田山花袋の詠んだ詩の石碑が立っている。碑の周りには、春にカタクリの群落で埋まり大変見事である。



釜伏山へ抜ける舗装道路を横切って、天然の要害となっていた深沢川の方へ下ると、町の天然記念物に指定されているエドヒガン2株が斜面に立っている。一段と低い土塁そばから見た満開時のエドヒガンは、バランスがとれて何本かの太い枝が左右に広がり、写真家が群がるところである。

深作川へ下ると河原の湿地にヤブミョウガ、クサノオウ、シャガ、カテンソウなどが一面に生えている。

対岸の崖を上ると鉢形城歴史館である。丁度北条氏邦と信州上田の真田氏との関係ある文物の特別展が開かれていて、全員で入館した。

その後 500m程歩いて標高 186mの愛宕山に登り昼食とした。この山の南側にはかつてサルトリ沼があり、モウセンゴケが自生していた。今は、その近くでゴルフ場になる前の三ヶ山の残存株を移植し、モウセンゴケの保護増殖中である。

午後は赤浜地区の昌国寺まで歩き、境内に植えられたコウヤマキの大木を見た。高さ 25m, 幹の目通り 4m, 枝張り 15mはあろうか。太い枝が地面まで垂れ下がり、その先は鎌首を持ち上げた蛇のように立ち上がっている。県下随一の大きな株である、私達は県立川の博物館の横を歩いて帰路についた。（高橋）

【第3回 野外観察会】

日時：平成22年3月28日（日）

場所：入間市・加治丘陵トラスト地

参加者：18名（指導者：山下 裕）

天気：晴れ

活動内容：早春の植物の観察

この季節、加治丘陵北斜面はカタクリが群落をつくっています。その側には、イチリンソウ、ニリンソウ、アズマイチゲ、ヤマエンゴサク、ヒロハノアマナなどがみられます。

今回はトラスト地の唐沢沿いに入りました。ヤマルリソウ、トウゴクシソバタツ



ナミ、ナガバノスミレサイシン、シュンランなどを見つけることが出来ました。また、入間市農協から北へ、丘陵地帯に入っていくと、フモトスミレ、センボンヤリなどが咲いていました。

この近くの神社には、スダジイやツクバネガシの大木があり、実生から育った若木が点々と観察できました。このコースは、春夏秋冬季節ごと多くの植物に出会う事ができるすばらしい観察コースです。（山下）

【あ と が き】

今年度も埼玉県委託事業として「21年度埼玉県レッドデータ植物編再改訂調査」と、「21年度希少野生動植物の候補種選定調査（植物）」が昨年度より継続となり，調査員の皆様は大変忙しい年となりました．

しかも，巻頭にありますように愛川先生の突然の訃報が重なり，報告書の作成だけでなく，会の運営全体にも重大な影響を受けることになりました．

愛川先生が立ち上げた「さいたま植物資料研究会」の機関誌「さいたま植物通信」の第2巻合本の編集作業も1月末に印刷が終了し納品され，先生にお渡しする直前の入院ということで，編集者として直接お渡しすることができなかったことが心残りです．

ともあれ，NPO法人としては当初計画された事業「年2回の観察会」を含め計画どおり実施することができました．会員の皆様のご協力に感謝します．

＜表紙の写真＞ クマガイソウ 絶滅危惧ⅠA類（埼玉）・絶滅危惧Ⅱ類（国）

ランの仲間で袋状の唇弁を持つ花は大きくよく目立つ，大きな葉は扇状で対生状に2個つける．分布は北海道南部から本州，四国，朝鮮半島に広がる．県内には低地の台地周辺部から丘陵地帯の竹林や林縁にかなり生育していたが，園芸目的の採集やゴルフ場などの開発行為により急激に減少した．現在，自生地は少なくいずれも保護地となっている．

埼玉県絶滅危惧植物種調査団ニュース

2010年3月31日

編集・発行 NPO法人 埼玉県絶滅危惧植物種調査団

発行責任者 矢島民夫

発行所 〒340-0012 埼玉県草加市神明2-2-48

TEL・FAX 048-924-7288

事務局 〒350-0042 埼玉県川越市中原町2-10-1

TEL 049-224-1003